高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成）
 タイプB 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代表校名 (連携大学名)	関西医科大学
事業名	先進がん臨床研究の促進と個別医療の最適化に対応できる高度医療人材の養成
事業責任者	関西医科大学医学部教授 倉田 宝保
事業の概要	
<p>「がん」は遺伝子変異等の個体差により、統一的な治療が困難な疾患であり、多様な先進医療や個別化医療技術の開発とともに、患者ごとに最適な治療法を選択して組み合わせ、提案・実行できる高度臨床医の養成が不可欠である。関西医科大学は低侵襲で革新的な光免疫療法に関する研究所を唯一設置し、改良・拡大普及に向けた研究をリードしている。更に、世界初となる恐怖情動（恐怖臭）が免疫機能を活性化する感覚創薬技術も発見した。また、日本人の全ゲノム情報等に基づく高精度個別化医療システムを開発中であるとともに、国際がん治験センターを米国専門機関との JV 方式で設立し、特色ある臨床研究拠点を形成予定である。本拠点をベースに、働き方改革による教員の業務負担軽減を進めつつ、医学生に臨床現場や先導研究に従事する機会を海外を含め多様に創出して、リサーチマインドを醸成し、将来を担う優れた知見・技術と倫理観を兼ね備えた人材を養成する。</p>	
<p>推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等</p>	
<p>○論文生産性が年々向上しており、国際がん治験センターを米国専門機関と JV 方式で設立する予定であり、進がん研究推進センターを設置して、戦略的ながん臨床研究拠点として機能させる計画である。</p> <p>○光免疫医学研究所と感覚創薬実用化研究は独創的であり、国際競争力のある特色ある診療領域と評価できる。また、光免疫医学研究所が文部科学省共同利用・共同研究拠点認定を目指している。</p> <p>○医学生や大学院生に対する研究力を高めるための方策が優れている。</p> <p>○海外留学の支援対象枠の拡大、トリノ工科大学とのダブルディグリー課程を設ける予定である。</p> <p>○自治体や医療機関と連携プラットフォームを形成し、学内教育負担を分散する取組は評価できる。</p> <p>○医療情報等の研究データ等を共有する取組が進展する事が見込まれる。</p> <p>○京都大学、大阪大学等とがん個別化医療システムの形成について協働して取り組んでいる。</p> <p>○米国専門機関と新設する国際がん新薬開発センターを西日本の産学連携の拠点とする計画がある。</p> <p>○スーパーメディカルクラークの養成、各診療科への配置、看護師特定行為研修を行い医師の診療行為をサポートできる看護師の養成等、タスクシフトシェアへの取組は評価する。</p> <p>○大学病院機能の徹底したスマート化を図っている。</p> <p>○バイオバンクを有している。</p> <p>●光免疫療法医学研究所と感覚創薬実用化研究、それぞれの施設内の研究代表者が事業実施体制担当者に加えられていることが望ましい。</p> <p>●医学生や大学院生等に対する支援策の記載が不十分である。</p> <p>●診療参加型臨床実習の課題は多いが、更なる充実を期待する。</p> <p>●本事業を実効性を示すための学内組織の体制整備に関する具体的な提案を示すことが望ましい。</p> <p>●実施体制の担当者の人数が少ない。</p> <p>●臨床研究支援センターの職員数が不十分である。</p> <p>●外部評価委員会を設置し、毎年度開催、また中間評価についても実施することが望ましい。</p> <p>●事業主体となる事業委員会の開催が形式的な開催となっており、事業の実効性に懸念がある。</p>	